

令和2年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 幸和会	代表者	理事長 福本 育馬	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の本当の気持ち(ニーズ)を理解し、思いやりのある対応を心掛けています。 ・利用者様もスタッフも、明るく笑顔でいっぱいの雰囲気作りを目指しています。 ・職員への研修を充実させて、介護の質の向上を図っています。 ・地域の行事やイベントに積極的に参加しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ふるる	管理者	木原 章博		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	3人	4人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者様の情報やニーズについて、利用する前の情報だけではなく、また家族様も知らない地域環境も含めた情報があるため、信頼関係を構築し、本人様、家族様、近隣の方からしっかり情報の聞き取りを行えるよう心掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーの情報を基にしているとのことですが、やはり緊急時となると情報が足りないところもあるかと思えます。しかし現場で実際に介助したことからわかる情報も共有しているとのこと、お互いに補い合うことで十分に対応ができていないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6「連携・協働」や7「運営」については、職員としての自己評価が難しいところがあります。毎回触れていますが、この質問は、介護職員・看護職員に行うのはあまり意味がない様にも思います。 ・コロナ禍の状況で、「今」のふるるさんが見れてはいませんが、資料を見たり話を聞くにあたって、自己評価ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。今後も継続して頑張ってもらえればと思います。
B. 事業所のしつらえ・環境	特に改善点はなし。	<ul style="list-style-type: none"> ・去年はコロナ禍の中、ほとんど施設内に入ることができませんでした。ですので、今まで通りであれば、変わらず居心地がいい空間になっていると思います。 ・今までは事業所に入りやすい工夫はされていましたが、去年はコロナの影響でほとんど入っていないとのことでした。その中で、コロナが少し落ち着いた時には窓越し面会をするなど、少しでも面会できる工夫が 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の清掃業者に任せていることで、いつ来ても綺麗にしていると思います。今は感染予防の為、清掃業者と協力して除菌作業も行っていると聞きました。 ・コロナ禍の中、「コロナ対策委員会」をすぐに立ち上げて、予防について話し合ったり、今後もし感染者が出た場合の対応についても協議していると聞き、施設の入居者様を守るため、また小規模の利用者様が安 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。今後も感染対策等頑張ってください。

		<p>されていて、家族様も安心して いるのではないかと思います。 ・臭いや音についても特にな く、聞くとオゾンの脱臭装置を 全館に配置しているとかで、来 た時には全く不快な感じはな いです。</p>	<p>心して利用できるように最大 限工夫されていることが分か りました。</p>	
C. 事業所と地域のかかわり	特に改善点はなし。	<p>・昨年は地域の行事やイベント が全て中止になってしまった のもあり、普段なら皆さん楽し そうに参加してくださってい るので、中止せざるを得ないこ とに辛いものがありました。 ・ふるるさんは普段からいろい ろと関わってくださっている ので、地域の方にも良く知られ ていますが、現在では近隣での 困りごとや相談ごとを、相談に 持って行っていいのかわかり ません。</p>	<p>・昨年はコロナウイルスの事も あって、地域の行事が相次いで 中止となっています。今年もど うなるかわからない状況です。 ・運営推進会議は書類での情報 共有で何とか理解は出来てい ます。 ・今年もこの先どうなるかわか りませんが、ワクチン接種で安 心できる世の中になれば良い と思っています。</p>	・特になし
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	特に改善点はなし。	<p>・昨年はコロナ禍で、外に出る ことが難しい1年だったと思 います。最初は閉じこもりがちに なっていると聞きましたが、コ ロナ対策委員会で考えて、周辺 の散歩やドライブにしても換 気や人数を抑えるなど工夫を して外出レクリエーションを 行なっていることが素晴らし いと思います。 ・今の状況で、施設の外の方々 に関わるのは、入居者様を守る ことから難しいと思います。電 話などで話ができるならと思</p>	<p>・外食や外出など地域に出て楽 しむことが全くできない一年 と聞きました。感染者がどこに いるかわからない以上、今まで の日常に戻ることが出来る日 が早く来たらと思います。 ・地域の行事やイベントも、全 くできなかつたので、早くでき るような日常に戻ってほしい ですね。 ・コロナ禍の中で外出すること が難しいと思いますが、工夫を 続けて利用者様が地域で暮ら していることの楽しさを継続</p>	・利用者様が安心して利用でき るように、レクリエーション等 工夫して楽しんで頂けるよう にしてください。

		いました。	できるよう頑張ってもらいたいです。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	特に改善点はなし。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年はコロナの影響でほとんど運営推進会議が開催されず、施設からの情報はもらえましたが、地域の心配な方のことなど、話し合うのが難しいのは仕方ないことではありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年から特に地域での心配な方のことをいろいろと耳にします。運営推進会議で話が出来ていれば、と思うこともありました。 ・コロナ禍の現在、今後もそういった方の話は出てくると思うので、引き続き聞いて頂いて、地域が安心してお願いできるように対応してもらえればと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での相談事案を受け入れることができる体制を考えていきます。
F. 事業所の防災・災害対策	感染症流行時の災害対策を考える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善計画については、コロナ対策委員会で検討しているとのことで、しっかり対応していることが分かりました。 ・地域の防災訓練にはいつも積極的に参加してくれているので、今後もよろしく願いしたいです。 ・災害時、事業所は第一に現在入居している方々を守ることには専念されるということです。地域として、協力体制を取れるように考えていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、災害時とはいえ外部から人が入ることは施設の感染リスクが高まるため難しいと思います。地域も事業所もそれぞれで対応し、どのような形でお互いが助け合えるかを考えるべきですね。 ・地域としても、今災害が起こったら、感染を避けながら避難することになると思います。どのように気を付けるべきか、考える必要があるかもしれません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での地域と施設の協力体制を考える。